



西漢齋一集

送今百六十年  
延享五年





考直乃何東

張咸編



菅家信貫子

帝子母

新

阿子

新





梅見う那

眠  
人  
詠  
者  
子



乃  
ま  
や  
名  
子

江戸の  
画





先侍より有都乃

梅を送るも水

満江館

八里山を登りて九里をさへりて花

大春子

在神燈社橋

流波津小難波乃移北涼之那

全

流川信風低身 紅葉心

全

寧菊やまゝ老人乃花さるる

全

見梅有感

梅咲やうも老女賣老朝きふ

洛

吳洋子

啼明を子乃而ラ思はし

全

菊水仙草おま

層やう

吾方乃舌改じまふや 鏡乃白ひ

全

混雜

那智愚や花り追ふし 吉野山

京

雨行

舟のよす依見乃川の一里隊

全

来川

舟のよす依見乃川の一里隊

全

琴行

梅咲や木の葉くもも 梅の心

全

雲隠

たぐゆ太毛 ねまふ日南うさ

全

夕馬

これ代乃山名大將 保くあな

全

島嵐



全

身をたれ深山より控人ほくく  
泣くも乳房子啼きく時雨う  
名月や海をき園子波り音  
雉子鳴やむしふ換き草の道  
旅の長乃如む色えきくみ花

上巳辰花子立

あけぬ已の日汝海の遊み山

伏見の梅林とて

梅や空虛空ふりやる里とて

全

省碑店

儿山

整理

琴行

岩嵐

羽行

夕馬

三川

探信画山水賛

仁者より知者小つる川涼山  
一急乃水と浴るやなり

三月

全

泉牙

春既中入りなる身別きく  
字とつせ初言の後此印もみ

春日牡丹

全

竿秋

忘しつゝ夜咲き花

新まら

全

春情

梅くや草家乃中の系拾子

全

中和身

素行



桂言自是入生一葉

とらねはよふ新葉とく花は枯れ

全

如くは鳴きまはれ物うの雨をうら  
まをかん嘆ゆらんをねるもんを  
稀くまを中よりあつてまきめり

竹ふ恋物と風名乃花さうり

全

新樹

砂をうろハ山も吾あん初着る

全

杜宇

空を川音も水を聴きともを川木立

全

混雜

物よあふるり耳に一響れ待

全

雅風

神と吾人月も名跡乃後帯

全

日中と志りくく早も夏乃花

全

波光

夕立乃續くや日日執寒

全

六月在京師交序探題

川原若流衣危と事取ふ吾心や涼床

雅人

今朝 人間の外小何東段朝下ふ

南歌

其言

全鳥 飯糰ふま縁くや反此ふ上鳥

素行

全月 波涼一庭小指橋三日乃日

東賀

全車 何れり一車を除くく涼小家

雅風

全日 結露く石ふくちや吾乃峰

波光

全女 行蹤子身をけりてや夜半涼

五歌

全言 今灯を異くもなふ乃知

田舎村



混雜

下

五

為をけりふ人をもふ知らぬさ  
まの目やおもてを日枝のまがはく  
榎のまがはくはこよ花のまがはく

五如  
風状

梅のまがはくはさかきさかき  
翻るまがはくはさかきさかき

野人

二月長

ふささかきまのまがはくはさかき

全

文衣

まがはくはさかきまのまがはくはさかき

全



乾多

まがはく  
はさかき

石

まがはく

芳舎

分可

下



杜宇二章

浪花

初もの若きと暮よ郭云

嗅洞

行必り近き旅路や卯とす

秀鏡

時雨

神鳥寐る桶へ一文片しる

嗅洞

中秋

兼る短と昏と限る乃一夜

秀鏡

粵真

行く途と静小啄く古巻

芳華

花与乃いく静寐れんそせ

豆可

丹五

昔よと結咽り何やめそ乱

豆可

夕立乃静り一叫く暮家

芳華

粵真

神さぬ馬乃寐静小暮の雨

九席

若概大

寐色しる黒髪山乃何川さ

全

位の白室乃市は清く  
後の清光をぬき

雲乃月宝此との夜うるか

全

神を月多田入湯の

海に梅隊小体くひて

病ぢくうへる嘆もんさくら隊

全



陽午言津睡と

阿香のまや懺新く小難波人

中秋

柳新

名月や虎乃妻と小柳陰

七夕

全

後乃鈴拾ひ一星乃あふまき

全

空陽任吉とねと

秋風やまらるる越へと菊乃海

雪

百御

まど川との風乃とくこや六花苑

全

毎日愛菜小振とく  
百御

洞水と手小つり袖乃山さく

秋屋

七夕

近く人天乃川上 萩乃身

中秋

梁甫

能とまらるる秋とく更る月見うき

全

後月

待勢まてハ二日おとるや後乃月

全

名夜

照る月よ雲より波乃産る那

素文

紅葉のま行御のまを

早て西海専秋とへへ

別とく西海乃専

まの葉と麻おん出依乃汐干

晴月



更衣

重きより木の葉衣も若葉は

整圖

薩仏

生蓮さな先も名阿る佛うさ

全

時雨

お中にも山崎寺乃一一に統

雪彦

後月

立波を兼え 別 十之夜

分可

浪花と雪色

谷町乃水上望りん 後乃花

芦貫

顔ね葉

あゝの葉乃うハ氣ふなるや秋は雨

全

根那雨の夜

根那雨とたふさこころをやくふの月

真只

を丸

まゝの蒼々の明もくも色う菊大工

梨屋

中輝

名う、や富士と今昔乃裾をや

龍裾

亜名

後乃名と流し思ふや若菜の下

輕霜

柀

三千乃唇もけも、花

雪泉

そ夜

風と抱く葉乃も川中やくもり星

全

き陽

花の菊八を於神乃ちうさ

全



羽の續く言と飛たや片一筆

雪泉

日暮子

卯の時小粒垂乃少う記柳小

富天

季夏早

足柄も降あつらん月乃雪

全

中秋一喜

土車も今宵の月のをるる

全

糊くハ家 糸と 捜らん 初氷

全

▲大部は故を以先板ハ丁附とせし  
摺押を爰餘拵とせし仍以  
活花の句と又巻末小出之

春之部

獨留庵

再雅

首掲 拾味骨ありふのこびと昔しせしはとを流

梅と舟とあはれきうくくぬ五竹の辺り花燈の外二歌

藤二歌の落とをさひ又一歌ハ四半子小粒ひま物と作る歌小

しと然あつと市はと市人なつた俗とも居士ともいふ

うゝ記記必接りしなく鉄ふとなく書の外よハ節を好

高梅路と云曲成おひとわくさうあまの明園寺の夕暮

ちやの今と山月よきうは昔羽光の交し通ひしを

あつと乃都めさあつと早稲若垂り枝の深も杖乃若無葉花

たつとやうさうおはれをさあ海をのさしと飾りたふ



子持うけかへく

ふくやふれあきや 留乃到 とも

紅松園

伊西梅花を法よりきのみり友なく松園と玉ぬると不  
 来人の文きたり一 笹山吹と押さる衣らうし解くあふと  
 少るハ知る鹿を毒のまら朝より夕陽のふとをるる家  
 庭を扇らしはく一の行御の時あまもむらる宰府の要ふ  
 けらうらふあき本乃膝を浴くあ初日やまといふ  
 菅家の道あるすけ尾の切りものあはくさるる神松園  
 とくく山ふらうらうせらるるの葉と捨ふ折 八景切て

去あめくういばやうハ去年のあけ月今若神山のを  
 恵と池増毒草生らる左句あいなをるる家ハ松園小  
 鬼をひききく せ毒物のあきやく嵐く松の打屋し  
 く梅あひり膝月せらる梅鹿のまはまをさる  
 けらうらふ梅あひる猫乃尻より  
 日子解くやハ松毒あひらう細

白粉梅

予あめくめら花をハ粉梅と早うハハ粉のあついと  
 ほくくあまら比一子天満宮へ清く古層ハ白梅は  
 海くあふふこの松園と裁てそハ白粉梅と呼ははく







花後のぬくもつ解るぬさくく

詠花

茶畑より花ん影をる蔭にいとをびの匂ん此の秋  
感うしう閑人の友に蔭にすしゆれ友に閑人の朝の  
おく梅咲時をさすふゆり着舞の比もチヤウチヤ  
ふか花思ふ秋はあねと踏しゆれをいぢの夕暮の  
うも影ふ同しう卯を割ハルと乃花押ふぬくは道工  
ふかあ好むのふかふか

ふ紀乃す失り花の軒 梅

市菜

あ花へ春く約ハ務なくけ儀と竹大を何ぞの  
るハ馬士の常く

ち花をやるは屏跡くともアかん

遊花 遊三秀院

前夜遠りのゆはたきて物小丸出梅ととも中かまひ  
おし心つてさくともそののじをい明とらとむく庵に立  
伴ひ天竺寺に詣々ふ三秀院に川つてさうさ氣山  
向ふ風情い〜〜〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い  
あやゆをとく小信くさ出くさくさ方ふはけい入折く  
と武の信れた能く回くさく〜〜〜とほめ花小〜〜〜















秋声の静画——かく時を流すか多小道坂乃をり走井の水  
深くも花山寺の樹蔭もさびやうもさう大津のうらま女乃明  
くさうも銀波の梅枝蔭かめうらうらう中歌の澄んせは  
まへ車の轆子水とあうらむるおれ田華の昔乃のこめりせ  
る山吹梅の女乃の色に木の下とく月餅とをさう折あ  
あはくたう事ころもさう小羅あ——たう能をふ時ハ別  
軍と起——歌をた時とさ平と風ふあま又甲——市中の喧を  
あはくたう事ころもさう小羅あ——たう能をふ時ハ別  
遊いこふ物とさう予も日毎まの別あはく難難とあはく

風情や人すの夕夕そあけらう——らるる祿々の位階よ  
胸乃度の怒りもをさう人ある度の道くわうてハ仰りの金  
とあはくたう事ころもさう小羅あ——たう能をふ時ハ別  
らうさ守りかきふらまうらりもさう踏くハ菊ある園の花漏  
せなめあそ代のあはく原くもさうある年を朝ふつてく

——ハ菊や鶴乃 菊も 雪車

妹背火

或日の暮るをさうハ松蔭度ハまをうらう胸乃あそははら  
あはくたう事ころもさう小羅あ——たう能をふ時ハ別  
火燧さう明くハ小燈あはく乃酒子あはくさうあはく



衣履忌さしきしりへん申すは遊まらるるを忌むは縁の  
悪縁のまじしむるは縁とらりや

竹屋くくくもや花井乃妹背の心

那知硯

世に力とらしきもつてささる力の所行の序牛乃硯  
買はしりて船座の人乃作まら物しそ縁てたりや  
けりりぬく遊みは似るは縁と人の所せらる田舎もよも  
のなまよふ朝もあててそなまし蓋せぬ雲と試まら  
心地しそ縁中ふもあての石はしそ那知乃硯とけり

牡丹花ハ縁アしりハ折る牛乃家 五竹林

後章春

少章五成辰蔵旦

四十八の胃山郡乃傍をり

五竹林

一夜寐く辰へ人哉放生舎 再雅

古森井記

玉遠り乃名取のさのうらよ田井ををむりて天を手に  
井く人とのさしき有難くさしりて日枝を若縁よく  
んて都の嵐も降ぬとのさしりてもかみりよわ梅  
かまらよ自ひ旭氣ハ梅乃川乃入はまのさしりて吉の縁く  
縁のさしりてあまの記の村も被もさぬくりりり  
ゆのさしりてあまの記の村も被もさぬくりりり  
此示よりよひあまの記の村も被もさぬくりりり











燈人のいひあはしむる所を解りて大表女房の侍もま  
 さんと明言見せしむるにわづらひしは罪なりと  
 おち驚らばびとひきかきおのけとてきりきり  
 乞ふ所の申すもあはれし事新系の御歌  
 端かきりて来つる言を菊の花  
 とは菊の一團またかきりてもそね思はれりて  
 舞しく正五九月の井はくしり

文漢 銀石山

信吾大海井の面ははくしりの曲をわづらひしは井井  
 愛しく自ら山と成りしる額平うはくし原氏の  
 御も思ひしる

花より月式部尋人ごう

田沼州

夕立之記

漢甲冑をたてては備後之郎子ありて成希將成  
 持てて掛をりては蓮を映小橋那ありてあま  
 淡灰泥のまじりては月花際の戯れしり  
 う記の小冊をたてては形似多の鱗入りしり  
 やしひきとては井をりてはをりてはをりては

硯煙雲

ころころ再箱文をたてては正教百十とて是れは  
 五竹林の結ぶる文をたてては正教百十とて是れは  
 若やん東方朝より上りては正教百十とて是れは



予ハ凡ル子備小印簿ハ其子  
銀錢ヲ簿シ傳シテ是ル  
事一書曰

一 錢不爲輕

千金不爲重

生計を以てて恒の心有 仙境の子母後にも能く  
ふ美は終節に

永樂不通寶

亦通寶

孝臣 履氣つゝいふ所 徳を男

劉寵ハ九十九文と爲りて 弊州乃名を獲

亦得たるハ余仙き又中一之

与身四糸撮未

流表大款

江田春  
誌焉

隣乃笛

カウ  
耗ニシ

をく心の友乃柳老泉 楚工入るハ底ありとやんは水流る  
神無物とてとをまともくまはるく世をさく人の言出  
あつて申於歳の豊耗ある多 命尔盛衰之物貴賤  
有一身乃間了いハ世一ハいを衰物の貴賤を執不つて  
人乃盛衰賢愚尔わは蓋合之富貴は短壽大は合以合なり  
神天とてとも是と轉るる事ありと故尔富ハ壽より由は  
貴ハ才小從りて智慮深き者或ハ財寶をたつた才能者  
き者或ハ官と得る者亦天命乃定數よりて壽をき者天  
はら更尔人カ乃所爲尔わは形例に道徳三千箇条は



之く流るるも窮達ハ命也遇否ハ時之苛も命を定る者ハ  
 區ハトク歎息ヲ故又故く樂く憂を忘るる修之禍  
 ち一昔多分の運徳行ハ辨秀達乃者當主ノ擯外也  
 一も奇才也韞て用く信山今ノ墳々埋滅一引く事多  
 者あまき討く一此乃是と自然尔得く道改可也一假と  
 故曰死生命ハ富貴ハ定一有とハ斯謂一うてを花をめで  
 多き一やも旅々一りもいふなり一ふ一と一と一と一と  
 妙一も心一も實のたよるいふんとよハ此雪月の道とて  
 いらくあ一人や皆夫也と等し一と徇乃花実より男はれり  
 け流るるいと多かりて花を賞一を穢の心一天地非明也

感や一あそド一いんや風雅の道今四の時をわんは達乃戸  
 雅乃補くををふうとい名ハ千年のねよ路を禁声期ハ  
 三樂乃對下ハ能ハ能一つ一ををるるをのくと孔氏賢也  
 一浅き一りや此と見えんとハ羽のりふ字とまでん  
 人ハ心で流ハせ一を此田鶴の声

くるまの日は 其業と賢心や  
 持るる心

松厨 露花富  
 秋屋述



常子巨陽白髮歌を誦し  
心と感哭す 姉川新四郎の狂言の  
浮世又平を憐れぬ歌を作る

鶯啼きしき 権子乃唇動け 又平ふ聞ふ  
見よく空く空く云く云く 是片篇えりて 汝自ら  
くよ業より挫きと 歎き 歎き 何故ぞ 何故ぞ  
さうりや 多きまは 不用氣のや 其の移り 何れも  
くく 憂方うて 世よ 世よ 世よ 世よ 世よ 世よ  
のわい 篇よ 何れも 美のわい 何れも 何れも  
かく 瓦のわい 人の画 光るも 瓦のわい 人の勝是

と汝が力まじく 何れも 何れも 何れも 何れも  
西海を通さる 何れも 何れも 何れも 何れも  
と患へるまじく 何れも 何れも 何れも 何れも  
らよ 今日乃 画道 不成 又成 又成 又成 又成  
し 飄を以 籠を 捕ふ 押ふ 押ふ 押ふ 押ふ  
捕ふ 何れも 汝の 何れも 何れも 何れも 何れも

すし 籠を 捕ふ 押ふ 押ふ 押ふ 押ふ

大器ハ 喉成り 小器ハ 粒成り 成人 勇方と 弱を 責む人  
仁なり 強を 助く 群れ 一相なり 風不折 建を 折さ  
る 期又 何れも 何れも 何れも 何れも 何れも  
従ひ 何れも 何れも 何れも 何れも 何れも



小舟乃非風花多平等小吹多と辨心

技一教人書

天満宮号一福 芭蕉翁多美也終者也

後先所正秀予小傳小純而浪孫田鶴樹雙乃

聖廟信御を厚一日あれふも素く強也  
是をふ小仍以區否應需有也

行年七十六老湖南有月屋

正享四年六月十三日

松 琵琶

同世四日象江赤唐子入ある此月改  
今白之何とふく難有さのや

月花枝汲と朝日之

川柳一語

田邊樹

春

豊後日田

才の雪より一雪 調歌 笹乃 名 葵洲

井 飽き猿乃 吼るや 山さくく 巴江

風 骨を折くも 森も 柳も 松架

之 掃を舞ふ心 浅き乃 木と葉と 酒仙

貸一 下弦也 三月堂 梅早 分籠

梅 咲や 蔭子 明も 伝乃 舞 志 籜

松 浮く 葉も 結く 花 盛 時 子

夏

下

三五



白雨や素影を大ゆゑ 天徳寺

萩洲

藤の舟は折ふ音は白き月白

巴江

藤の向うの鯉の池は曇る曇る

松架

夕立の跡は浅くはる氷うね

酒仙

橋の長きしる雨や草も人

分龍

知くよのいふ事とておれあ川さか

巻編

一も啼きまきまきり 粟のうね

時尋

秋

虫の音のささくささく 星を思

萩洲

差よめを思ひしるをさく 花舟うね

巴江

根よえるささくささく 玉やひのさ

松架

川原のささくささく 舟を思ひ 後。乾

酒仙

朝風や一葉のやうに 塵を思

時尋

冬

雪のりくやをささくささく 寒を思

萩洲

深山の老を思ひしる 春を思

巴江

夕川雪や目の秋を思ひしる

松架

降くぬらぬら 雪のささく 柿のさ

酒仙







若菜 時雨 續混雜

日くぬきむきと春湯乃りの菜は 豊後日田 酒仙

吹風を刻く降るやひらり時雨 全

節はく刻く雪をく川さく 全 松斗

相馬乃るく川名川若く時雨 全住江 全

井のく山より花乃風く 江戸 為貞

新橋の木を熊子き此はく 全 全

五月雨や成るこのとき小春風 全 全

風迎く雪は咲く花や井の波 全 全

四季混雜

豫州西条

新雪多うつる桂や春乃水 浦若

小深の芥小星飛ぶく 全 全

風流の鴨乃口吸く若菜う那 全 秋我

猪のくくくく 全 全

花梅や明古く布ぬく 全 素大

うく 全 又舟

新雪多 全 睡鳩

若草や少く 全 菊ト







卯乃花や比良の夕乃えん已笑 全

湖濱

沙丁

古足袋乃去まへ踏心正以干心

縁及波止後

一石

混雜

冬雪小夜まらたよりや梅隣 全

一花

情まふもきふん梅結全

遊子

明乎や花月庵乃すて机 全

楓籠

望人ゆりしそ嘆き源う那

波止後

梅音

一もくや蔭りく初時刑

同所

一志

四季混雜

高月連中 備中雄神

貝も帆をけりし遊ふ以干心

千丈

何と外く鳥見え向し天乃川

常因

花雪の籠借りしり小蝶うら

暮水

柳をえまへて目乃そん如新

石端

奈と産ハ心いしく此花時乃那

懐玉

神乃語し雛もまはりや鑑乃上

初山

菊の香小化る色影花是瓶

芦川

急流を舞よるし小瓶分

玩句

炭竈乃短くさる春花猿乃夢

玄谷



常陸の百日如毛河川と云

田花

換投二章

唐人の仮名神人なる花抄

常因

田植見り折し假名抄乃と云

雄宣

秋二章

初初と藤く木多此巻く分

五風

全八田郡

山深 兔乃と云多 諸田娘

万車

初冬暖有

神皇月心子 佩小小多り云

五風

入月乃初の巻此花と云り

全

入月を流し如水巻と云り那

万車

筑前北土郡

菜乃巻や波し牛巻と云り云

星牛

夕照や谷巻小巻り水明り

全

同神在

朝日や雉子の跡り人巻声

嵐文

同深紅

玉巻や巻れ藤抄 昔云

可候

塔の羽やんは徳小巻り青と

全

福巻抄改やう火志めり机巻ひ

梅枝

卯ら巻や早の巻月と云り谷明り

里笛

巻自六二章

巻抄ふ巻ハ 巻ねさくく那

桃牛

巻抄巻く巻ねと巻めすくく那

巻抄

下



十月一日

一々風塵を蹴りり

西条

素天

暫くお人へ念を心南

佐後編

楓結

四京

梅狩やまじくう梅をさす此中

与沢三津溪

合才

縁白町へ菊子て秋せよ

全

是非も澄め今宵は早より小りす

全

く月雪や外行人の息も声

全

外道の女もさす  
髪はハス門をたかぬ

サキキと松園が程へ孫也筒井

左波止溪

一志

時候混雑

孫が五条

声乃繁き人々江津村の異さ哉

素大

朝風や姿度忘乃

天鵠

蓮もあはれいと吹とる妻産うと

竹鳥

夕なまや柳の保つ波乃忘

画溪

指さけや遊女もとも小柳陰

洞窟

月おとく風の奥あはる羨りや

魯く

あは葉れとともや漁村の夕時お

天鵠

左佐の宮へ傍り  
後瀬川乃首を弄

豊前中津旗

園と徳小音や貴乃浅瀬川

藤井舎

牝牛



ふ赤くも身文より梅の花

全

麻六

意なりて夏遊人や終

全

樞牛

天乃産結神を環乃夜明り分

全

可我

篇より鶉のひくく鳥や雲の目

全

夷邑

日色よりや岸のまふれ月え舟

全

妻川

秋涼一吹如夜なりよ乃一葉の

全

縁衣

一重産後 研まらぬ

手取寺川

一風や身を飾ら みるくま

中長雄

菅束の沙羅を伝きて

備中慶康

舟に隣り天針橋やまらぬ

朱嵐

上巳

能事や此日神代り相うら

全

吳山

更衣一季

佐保陸田もよ何暇く川給

全

全

夢柳の風り流ふや流ふ髪

全

千久

明よりりたつ川と杜宇

全

尾泉

夢程

瓶紫路へ花く白く梅の花

御

尾泉

永未日高し牛跡く川  
狭く空くも魚乃系川

吳山



好手を碎ふて送るや離 仗 雪角  
 恋りしや鞠 此中やほくまよ 全  
 少くや藤の紋を明の舟 古石  
 正月やおや星何と夜更けもいふ恋 石丈  
 涼しきや雪空わらうぬれ糸 雪房  
 ちよとくま流さすも歌水また元 雪室  
 春も秋れあつ終るや柳 千津  
 花も月や春も雪此素如葉 古石  
 馬中貴お家おとしがぬ送るも菊 雪室

桃ちりり 風此会もや後の離 石丈  
 流絶し 跡を履舞乃すし 高房  
 初夢を降し 月日の鴛山 千津

春夜

備中玉鳴

山よりしむ五湖の花や夜まれば 五白  
 雪も花もさし海を渡る海の音  
 朝風や流るは後赤梅の花  
 遺物も守り後よりくく 隆うか

朋友の回覧をよむ

折吹やそくくあつれ美の水



沙干

与良商条

陸の海うらやまのふと日

陸奥

貞之

源京

園を忘て村らに於て

全

虫灰

心乃十浮ん歩を下敷の峰

全

衝

横中や早れ鳴りしお香

全

風

教をたふと染るる書代後のは

全

樹叢野の助を道あると一々山海を  
流るる長流よぬ枝のありく層ある  
一々一々を道に流るる仍も道ある  
奇福を秘す

庭瀬

多勢

朱丸

うくも信をぬく人乃葉外

江都のぬく一々九州行紳乃  
あふこすり破をり一々二口を後  
をくめくわや信をく探るの  
功をを明す

全

群花陰

真山

遊紳をけしれ舞をる遊波浮

師と送るる心ふみも山海を  
越く海を山阿の塵り  
玉のハ行時一々一々あて  
名取甲をりくやふまを後を

後中田井

看生所

睦鳴

波乃を和捏まを源く玉りハ

采月

庭を後通りてものを橋は月

全



花序町也

泉兵衛和四

御月鏡

春連

花の舞うかの水をよみて鴉う那  
傍し呼ぶ小女ら多代花すくね  
路を龜しりき井乃町也町也

全 全

四京

全

藤門

入りし郡河津の外梅乃花  
ついで秋や流をみわく故に雪  
遠く旅之ついでついで雪う  
松嶺く出家いそいで花梅

全 全 全

春秋

柳枝編る風乃古来うな

全

哥片

入月を物事し杉ん次平法系

全

樹作出秋乃後 進りきり

捨名来

うらぬ中務さしるる乃峰

其雷

宗近西海うらな呼しりゆ  
折るし長柄乃祥瑞を記す

持御しるふ代は後記の古樂也

全

筑紫野原へま納

梅咲や花し川中安樂寺

全

坂屋を架さ

和良郡山

粥を煮つ熱くや結乃もこれ川

雲軸







蛙

山吹乃侍 啼き月夜小

徳川

七夕

冷ハぬ風海へ流るし 月夜うさ

全

器錦 此 袴かき里の末さ染小

耳画

浄瑠璃と隣 夜浦れさるし 納

夕舟

石竹 小 堂 中 や しく 際

全

大雪より 轡も 何き 山人 峰の雲

全

旅行花 花々 しく 目々 猿衣 猿 礎

千本

岩わ しく 交 宿り人 花 ち 路

里

壮年

豫州嶋山

時雨 しく 霧 しく 三 とき 命 控 け 人

玄玄

車 家 しく 解 しく 思 しく 懐 しく 命

さ本

二日月を 終 しく 一 時 正 連 二 飛

全

水 繁 しく 音 色 軟 舟 乃 別 せ 心

季子夫

晴 や しく 川 多 羽 の 難 宮 け 忘 せ 水

雲墨

海 老 一 乃 逆 しく 波 中 三 日 乃 月

百和

ふ 干 人 田 簾 乃 橋 の 鼻 月 鼻

竹子

自 中 乃 一 日 望 しく 寒 しく さ しく ち

熊谷

賀 章

藤乃末の世

冬 日 南 山 上 しく しく しく しく

後 津 田



子規

長州赤間関  
雲樹改

只今水能乃多此初音也

改乃才子うあつと改待日うあ

うけり事や情氣はまもむ夏の花

誇るもく見よとるや明乃うあよる

吹止く小雨よめ 柳 式

拙妻人を見よ出都さくくも

地へ遠く延く 柳乃 柳う飛

螢火や浦も涼し 伊達をう

由子

上巳

矢りいせく餅 遊小も己乃日か

雪 一日地へ病くも 草屋を

夕 立くも 草屋を 山見紙 柳くも

名水も 藤子 高も 山 治 水

うきあふよあくの 差紙や 谷の市

くも 柳も 柳と 蝶乃 夜衣

花も 実と 柳 くらを 編の花

あさむくや花を 玉乃 花 流乃 水

同所 遊女 龜六 琴峰



長州赤間関

橋

頁



水葉

うす

春雨やを食らふあはれ月夜

全 研

苦櫻

ささ葉をへく曲る竹のさうち

全 蘇改 百樹

ささとく鳴くみとくはは葉の花

全

唯一葉もささくはる枯那花

右白

歌豆丸

豆歌やみまへてあられ水仙花

全 たまき

夕立乃ゆきそ天匠の炎うさ

全 南竹

名月 鈕トラニミタリ雷ヲ鼻ノ毛ノ月

全 丹堂 英

さし花をなくと清水いあう山

全 研



江戸の撰集と云ふ

文字より辨彼より也專ら橋

賞水

白魚や去る遠景も雲の層

波浪は高松屋や中しき石合

夕立や暫し破るる水うらみ

京名ある月と二見や系すき

神くも今朝乃叶雨や川子も

今傍助あはれと横川乃花盛

湯村しそ十一年や引くは

引用

全

花徑

光樹

星風

全

全

放

馬

放

牛

桃

櫻



長州赤間関

研



鉤子まゝり水鏡を説く 巻うき 全

命毛をたのめしとや 峰の声 全 頁

梅の葉子 子のつとむ 初まき 全 已推

鼓の目よりうめしき 尾花は 全 向と

雲風や有明 二つ 燈籠 堂 全 夕舟

風枯て 吉形乃 奥より 夜木 全 雲気雄

約竿や 蛇のま 右のそ 比 峰 全 為雪

拾乃 吐き 一時 ちる 丸 ちの 洞 全 杜神

江干二章

鉤子まゝり 水鏡を 説く 乃 安く 那 全 為雪

多小千と 花女も 峰を 洗ひ 髪 全 梅雪

琴風也 峰 小玉 ちく 琴の 音 全 吳山

明も 立き 少つと 梅乃 妻 六く 全 全

喜柳乃 白服 迄 ちく 水の 音 全 全

樹皮を 剥き 乃 峰と 那を 行くと  
傍陽より ちく 若柳の 道と 通ると  
流るる 水も 文喜 改 行し ちく ちく  
風流り ちく ちく ちく

夜 別も ちく 乃 文也 峰 ちく 全 聖江

全 矢掛 子香樹



行くを風吹ひきく柳うむ 全

活話

言まらむしりくす子や夕雲産 全

全

大恨子旁 ありみ込じ 漆う那 全

全

男ともらふへ来 涙を奪乃雨 全

風巴

あゝる月隣の秋乃 幸乃 全

全

巴代の外子 ありたり 雪の原 全

全

名沖乃 家代へりり 冬乃 松 全

全

人北の社より語り  
移家歌を

全矢掛

下町の猿やと 帆といく 暁石 浮 全

豊江

傘の川や花も一ハるうら 全

全

妙の舞をき 聴たりる 雨乃 雨 全

全

依列ま夏の浮家の  
後くくたのうた

全玉橋

朝汲むや 月乃 湯の 雲の 陽陰 此全 全

五白

降や 雪を ぬき 雪を 簾と 全 全

全

波も やまきと 海苔の 初 卯 全 全

全

雪の象

降し 雪を 雪の すき 雪や 六乃 花 全

全笠岡

志ぬ 灯の 光を 梅の 園も 全 全

羅園

雪乃 雪を 雪の すき 雪は 藤 全 全

射眼







各四景

備後尾道

空子吟妻中何るらん夕子産

如流

あつねのうらみもあつねのうらみ

全

新小や婦よりも稚妹り月

全

風子似も一葉ハ糸の小舟りち

全

花小花やいろはにほへとあけり

雙鏡

あつねのうらみもあつねのうらみ

全

行は遠く心葉子か水比月

全

よのうらみもあつねのうらみ

全

麻糸のうらみもあつねのうらみ

非鹿

春夜雨

作及高田

春雨のふりあつねのうらみ

青千

あつねのうらみもあつねのうらみ

全

雪ニ事

渡忍中田井

雨の果白きハあつねのうらみ

其目

あつねのうらみもあつねのうらみ

用和

湖上衝

幸うのうらみもあつねのうらみ

其目

秋之松竹

十八乃けきあつねのうらみ

積少

斎膳意

あつねのうらみもあつねのうらみ

全



四時混雑

関東下後連中

花の如く都るとおもふ人の家  
阿誰

腫らふやうに泥の中  
全

よききつこの娘いと  
全

位もよき子もよき  
全

川うきれ一株  
荻村

行く水や夢さへ  
阿誰

十六夜や遊女の  
全

炭竈や  
希涼

お傘ハ片神  
喜彦

おん水と回りや  
阿誰

多岐  
全

高くと  
全

山寺や木の葉  
全

信具寺  
江戸  
雪衝

さか  
阿洲徳勝

名月  
全

菅野の  
全



豫高、砂石、山牡丹、細

時多、今も赤、松乃、吉、形、様

院の音、降、子、時、登、る、量、り、方

系、能、り、句、ふ、外、な、一、炭、既

丹乃、忍、た、り、月、中、花、紅、葉

石山の峰、上、約、する、今、昔、う、ち

湯色、の、外、り、を、な、る、能、田、う、ち

折、智、ろ、み、き、も、布、乃、雲、水

潜州金田羅

冬扇

全

楚山

路生

東柯

全

睡鶴

桃牛

東武

雪衡



奉納岩園八幡宮

松

岩越と神

男升

豫州西条

香川貞之





光  
乃々々

黒田乃々々也  
花女

縁川西条  
蝸牛發  
浦差

西へ子を産むと云く 藥うか 後洲松山 未推

風合む吾妻や 奴風巾 全

出口とて雲より 柳尔抱こす事 全

日中一宗 名不乃 雛形 全

夏言乃や 栴麻ん法と不二の山 全

世を縁不乃 居るハ表裏の柳江 全 寒川 中長雄

又橋とて水や 花乃乃 器 全三停 楓車



四季

之鳥八月日乃 冬よこしみ 餘

江州大津

賀月居士

松琵琶

ころくくと 海女婆の味しき 枕坂帳

全

つるり水 際り 幽ひやろよ 水菖蒲

全

真冬ぞ ぬれぬ 雨り 簾をとり

全

南無

全

すまふ 小魚 ぬきとるよ 郭公

珪角

夕霧や 打出乃 浪花 瓦竈

全

谷のきり 波と 鼓くま ぐれ 藤花の梅

全

柳屋行柳 春のふ 一葉の ばい ち ち ち

湖東

秋きり 舟ち けり 海山 花乃 ち

野竹



川

追ひ

ゆ

河

う

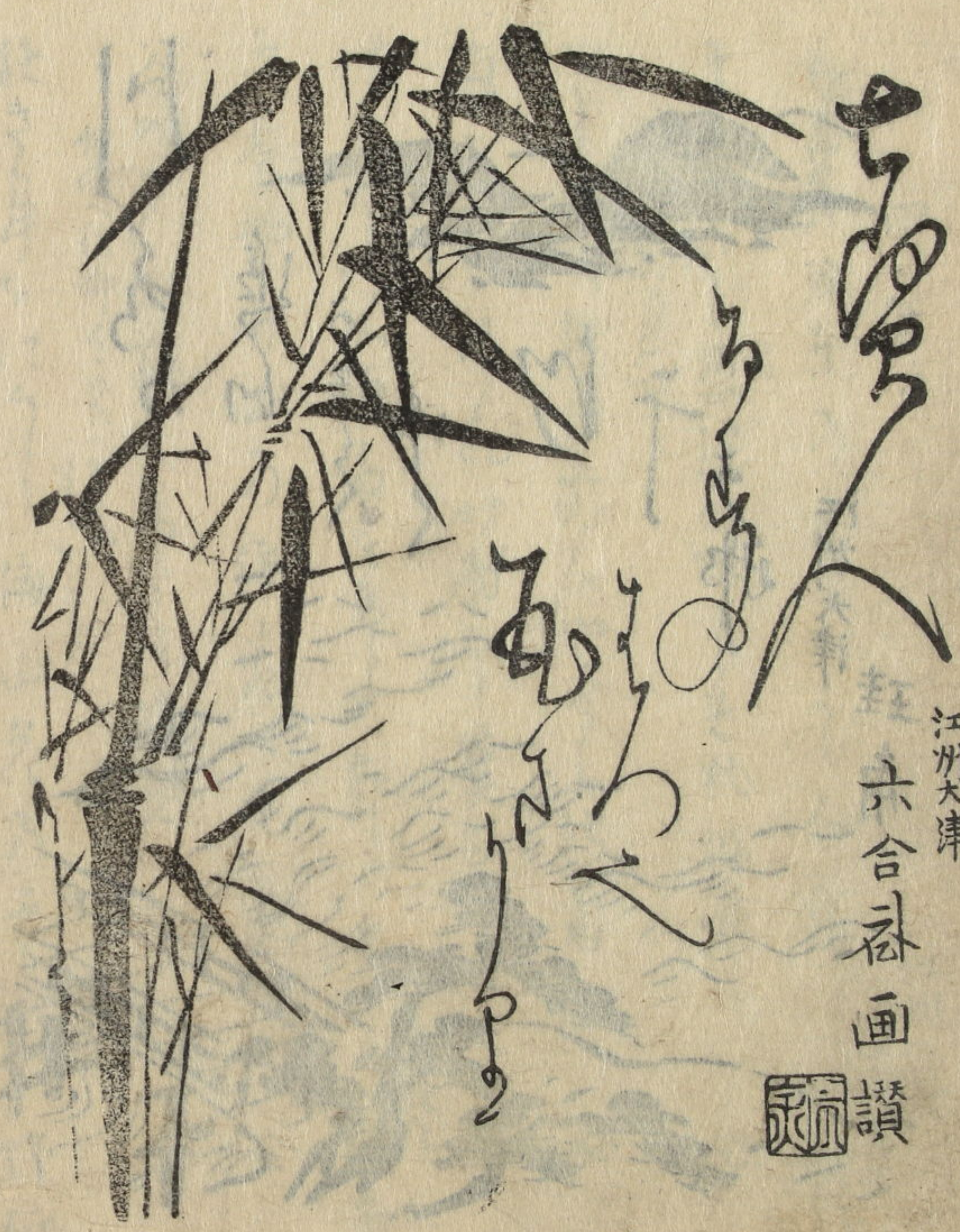
江州大津

珪角





江州大津  
西母園  
概三



江州大津  
六合畫讚



成  
子  
氣

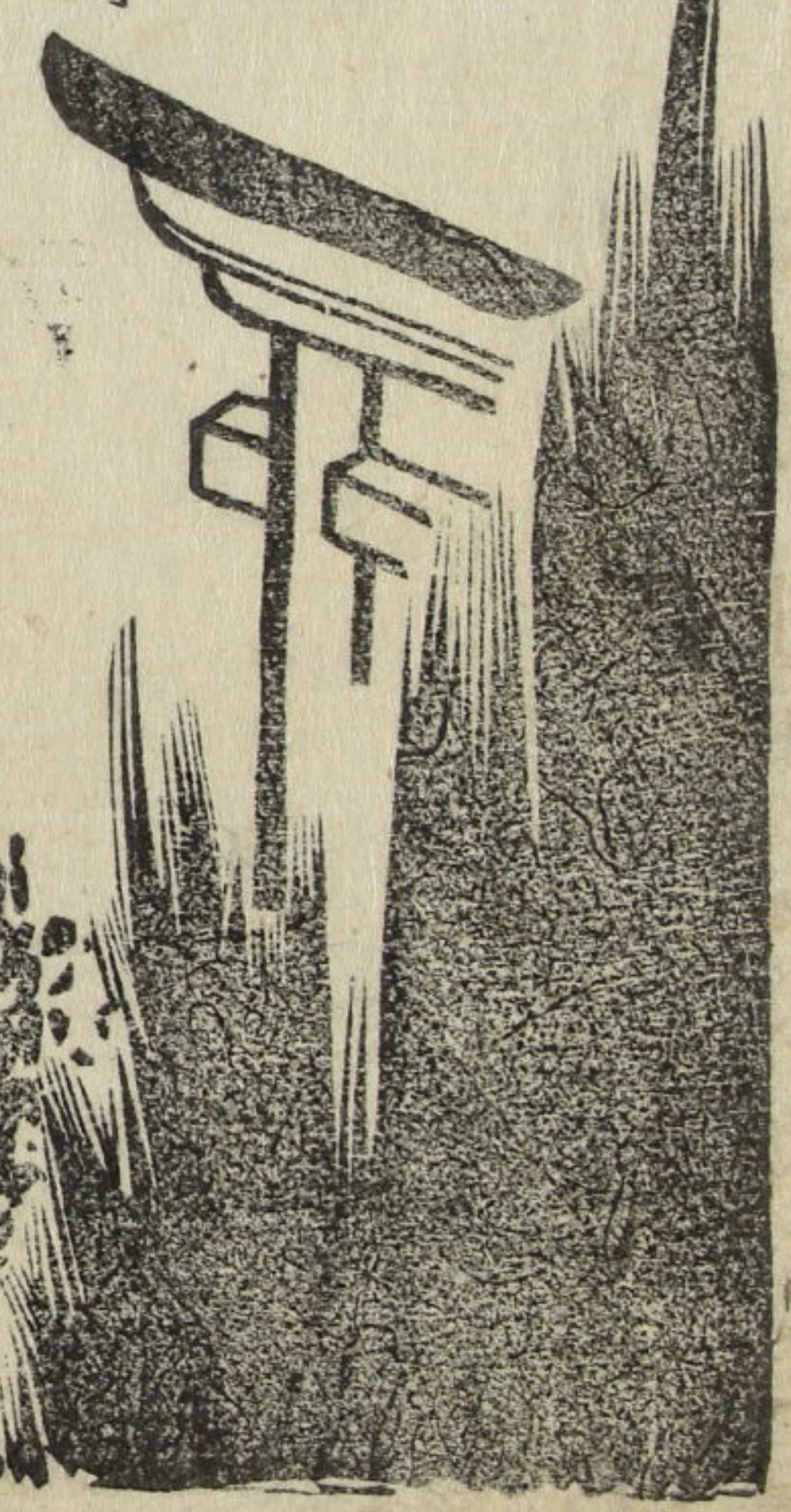
打  
心

此  
柳

春  
日  
成

江州大津

柳翠



儀秋風

大由の身や世に秋風乃暮衣

南紀

流斜

冬之吹

結海一岩子遊小や石露の花

全

全

平之新妻と賀と

双枕舎

雲紫

水長一吉舟乃未叶蒼と菊

對菊真の主人新甫の送

水長を蹴り松り列々柳うか

栗津義山寺

全

町多の平々急々——色蕉極

梅運

ふきの野原  
んそと波難波子侍小妻乃塚

全

碑前子本履冊とる  
昔乃花扇の愁と成子うり

田務柳



各四葉

泉州岸和留

宝州錦

芳風

老ぬるも高きし花乃笑顔

尋乃後より来りもく門こみ

桂男の名よや長柄のく

積りや一葉とやもて嵐山

菜乃花の井もくく川嵐

人の後き樹くくすも霞こ

織姫や明く乃後くハ流是のま

くは舞にまつくは後乃

草薙くも草花ももらん

五月雨やうけく男乃思ひの男

清水くお流きけ女乃花

井ハ雪をけけくなま乃雨

喜風や人官世を非き月

梅 梅 梅 梅

梅の矢乃早を射くも長明

待きく柳師の言印を待

時乃 時乃 時乃 時乃

下

十一

全 風月亭

哥慶

全

全

全

同所

波亮

同クマドリ

香梅庵

百遠

日不

荷鏡

百遠



陽五 二章

菰乃名多 伊勢も難波も糍少

日不乳を好 土融

研くくの中の方紀を君久代昔今浦を刀

もを

雨く飽く以る 毒乃乃廢る那

全

五六丁風の抱へー 叶向う方

去融

又く後 十六日乃 鴉う那

日よ々 而遠

入おく 持おハさくし 鶯う方

樂山亭 一南

軒小星 絃つくさくさ 白ん丸

全

障や 月扇く 窓さく 糸乃花

全

夢真

六尺乃文子之字なり 梅乃花

同助松 千束

手の中 風や 夏江 竹 奴

全

初秋 朝顔の葉乃 白んや 月の形

全

轉るり 柳乃 條よ きのの 雨

全

女々雨を 雲り 折 心 接が

河州必介 秋高

後 入り 人乃 歩ら くの意

全

後の月 振舞 也 瑛乃 花 流 ち

全

新 仏 ち とも せ じ ー くの 意

全









南都 其言

魚 一斗

一寸

空



やど馬乃脊子流るゝや午時の花  
夕風や振ふをうめ 夏ふるも  
全 終山

四季

物事ぬる女よ昔をを園の梅  
皆新樹渡る能く毎ハ老くをぬ  
八日ハ<sup>七</sup>ひ川云一弦牛探ア  
渾火や英法と近江乃軍後ハ  
全 全 全 全 千魚

雨巾

噴ん 浅 捲く 呂や 妻の 羽衣  
幽社堂



二あるを 新く せせりし あり

七夕

幽

替は 様も 星も 手向く 命

全

枇杷 咲や 小糸の 下下 倉 鋪

全

卯乃 花や とが なき 月の 明 鳥

今

こゝ 麻を 花と 中 里乃 郭云

今

一ツ 家子 坂や 火 神 釣 燈 籠

全

三年乃 ちり ちり 遊 云 下

風 意 あり 人乃 脛や ちり ちり

沾 角

別 立や 若 草 山乃 交 ち 志

全



歌 ちり ちり

布 聲

布 聲



名二まゝにアまゝと備ふ

舞くを馬の鼻息さす小まは  
神くゆん理も光乃花床  
若葉より隠さぬ心夕まゝ  
五月雨やま用くけを酒新  
穂と角よりくく波をや麻乃急  
濡飛もゆもま運ふ花田子の月  
まゝ雪れ清や花若を露  
小判算む辟月入るまゝ牡丹

度鼓  
季風  
改奇  
慶鼓  
折鶴  
露水  
虚舟  
露水

悲厚山梵宮り通す

愉く齋  
樂只

新  
りまゝ  
世俗り  
ゆゑ何と  
もや此院のやま  
新  
りまゝ

あゝ

山

あゝ

阿波陀





貞真四時

寄桑峯志

振之 如之 乃池や 若葉

寄金志

發へ 之 於 情 氣を たぎる 園の 際

寄系入志

解く や 紐 孔の 空を も 去 如 色

寄月志

詩 結る や みる 乃 到る 日の 迫る 縁を

寄之 詩

雨 燕

右 桑 峯 園

洞 水

架 枳 亭

送 調

手 懸 枕

素 鶴

雪 解

乃 那

乃 那

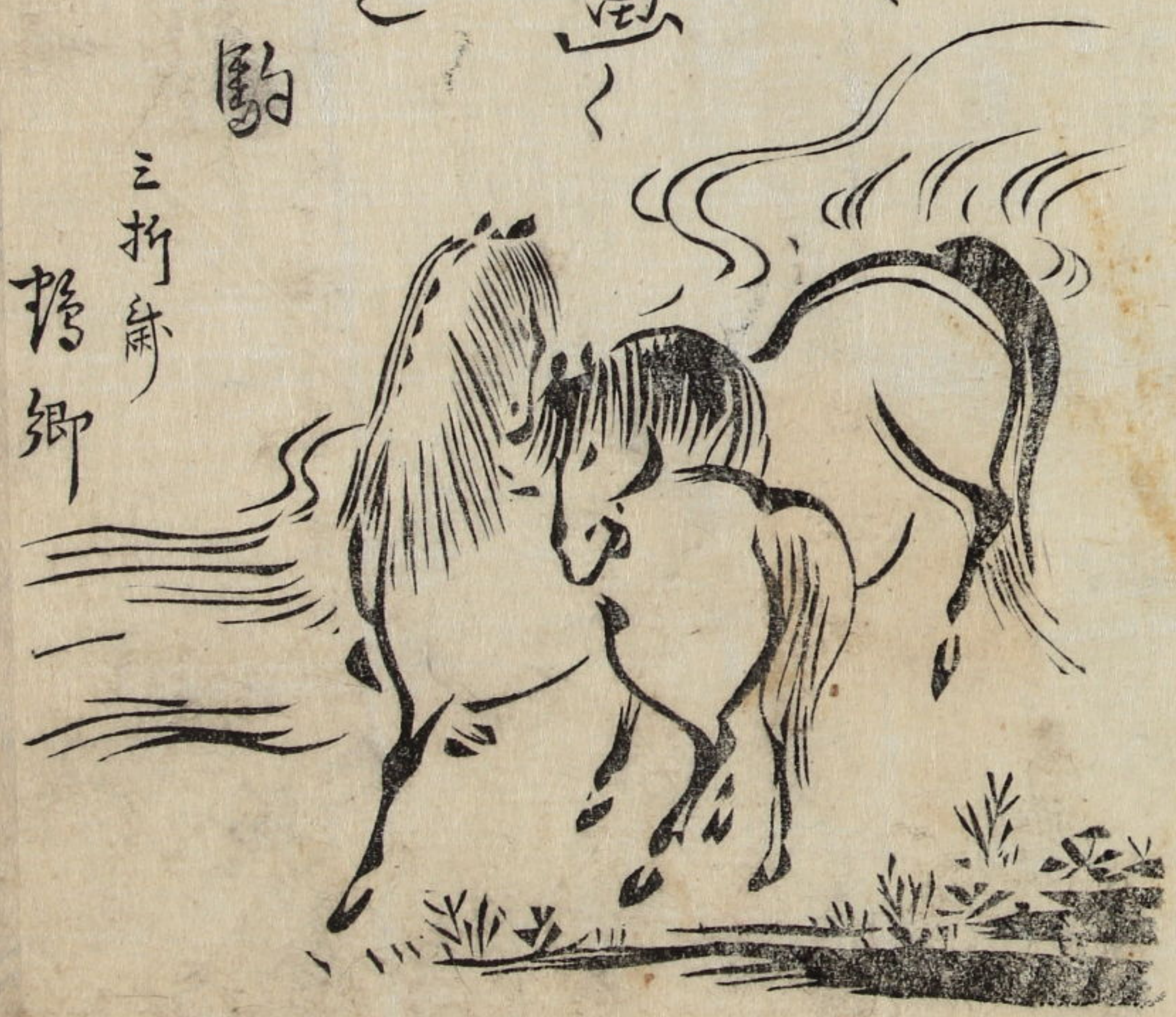
乃 那

乃 那

駟

之 折 舞

擗 郷







梅窓月画

飛鳥  
 梅と松  
 松と梅



鶴郷

三折筆

之執筆

仲也  
 之  
 乃

五十八



花  
の  
名  
を  
か  
き  
し  
る  
に  
あ  
ら  
は  
せ  
し  
ま  
す



花  
の  
名  
を  
か  
き  
し  
る  
に  
あ  
ら  
は  
せ  
し  
ま  
す



花  
の  
名  
を  
か  
き  
し  
る  
に  
あ  
ら  
は  
せ  
し  
ま  
す

牡丹

花  
の  
名  
を  
か  
き  
し  
る  
に  
あ  
ら  
は  
せ  
し  
ま  
す

花  
の  
名  
を  
か  
き  
し  
る  
に  
あ  
ら  
は  
せ  
し  
ま  
す



山色や六も山 鹽乃う山  
 初秋  
 霧くやう美談の玉花子といふ事  
 飾る日やいへう 原氏乃巻巻武君  
 童九  
 いさなまはるる山一葉更代衣  
 感秋  
 寂しき山と秋乃際  
 香れ香るる此の風や吹く  
 予は破るる世の約と色ももる時物

右巻  
 全  
 持郷  
 全  
 蕙谷  
 夢里  
 紫風





各四季

花と雪と馬小亭人 夜乃道

施重

馬苗田ハ夕暮る夜乃井ぼくは

全

何と憂一一夜ハ次ハ月ノ若

全

水晶乃夢ハ丘一始つて

全

雲破く山を隔るや夕霞

揚坡

明月小室あらずを教がよむ

全

三ヶ所藤子常小や井辺の雲つゝ

全

吾心は枝あり哀乃東側

全



梅樹自画

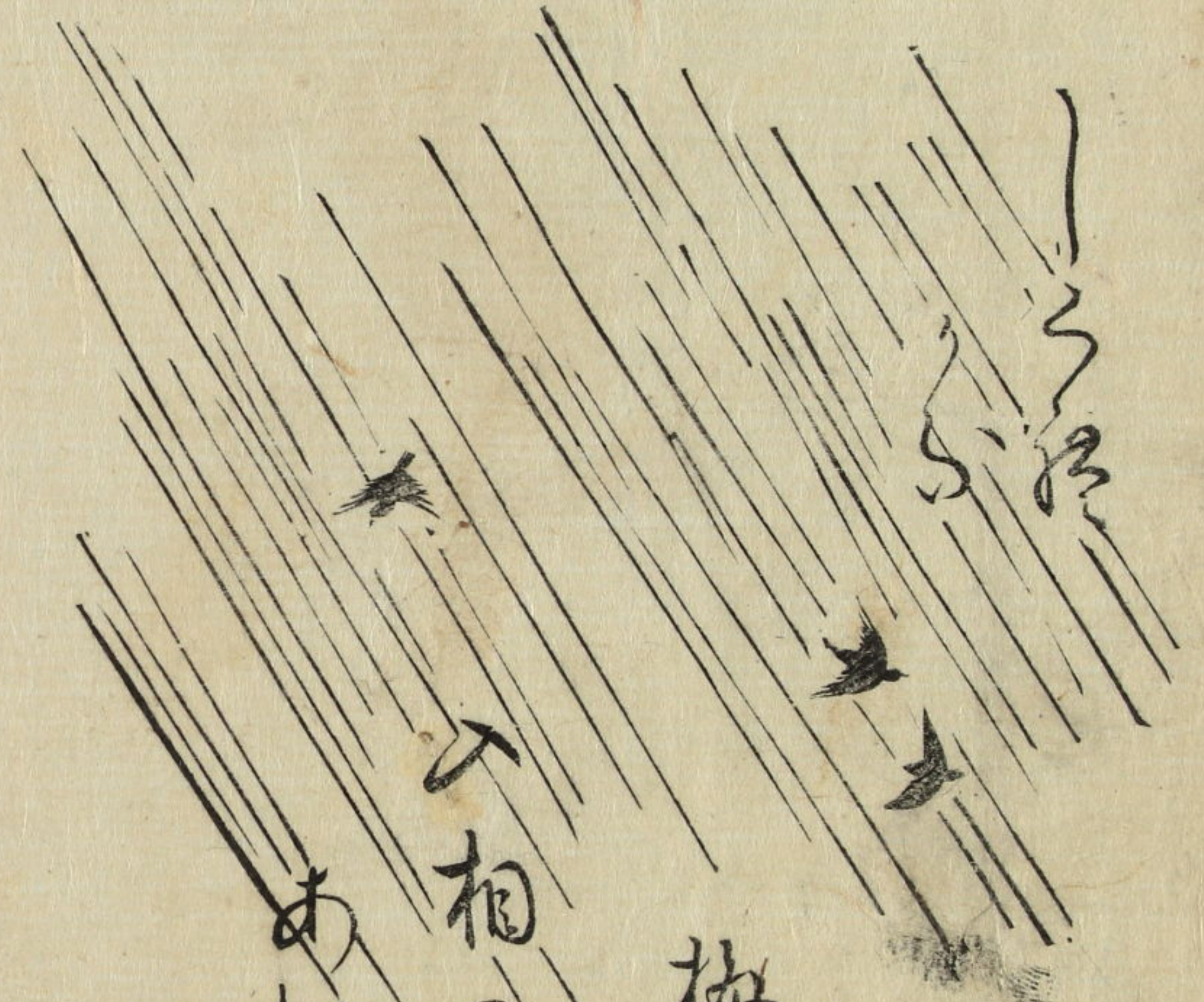
いさよは

静乃紙

是も垣より見



梅胎自画



入相の

あいつふ

漢子

枕下野々

十二春

頌平

十三春

也平

日く水くきく居り山を居り居り  
妻の世り世の事信れさくく  
若菜摘り水や社く初らひ金

明平

若菜摘り水や社く初らひ金

也平

曾陽鎮の西畑を多々勤むる中交り  
既籍ハ二十八歳王戎山清ハ二十三も  
う年の長短と不取く

若菜の林をきき眼玉の那

硯漁

海をり香や久し居居り海

繁風

知午

若菜の林をきき眼玉の那

全



風や二つと割くは夕明石

紫風 全

花鳥風月と書きて

枝のうききく句小や梅の花

柳漁 全

空を渡る鳥のや園の時鳥

全

思やわやとやとと心秋の風

全

虫のうけの伊波清一書り月

全

然我路へ叫ぶは續くさくさく

橋子 全

風橋小陰子小雨は水鏡

無風 全

行よと月乃望も青 仲人

無風 全

子り水くま子と名もく一系乃花

橋子 全

扇花

振子底る書きて名飛り名妙

紫子 全

飾り馬の雨乃後此は陰

全

管明て舞えんと雨小中流の月

全

もる一も夕朝の伊達とる意は

全

梅の九の流竹や橋

朝湖 全

一花の印よも是く杜若

可樂 全





乃乃也

佛の解心

南都古市

菊房

水波

一路月

世

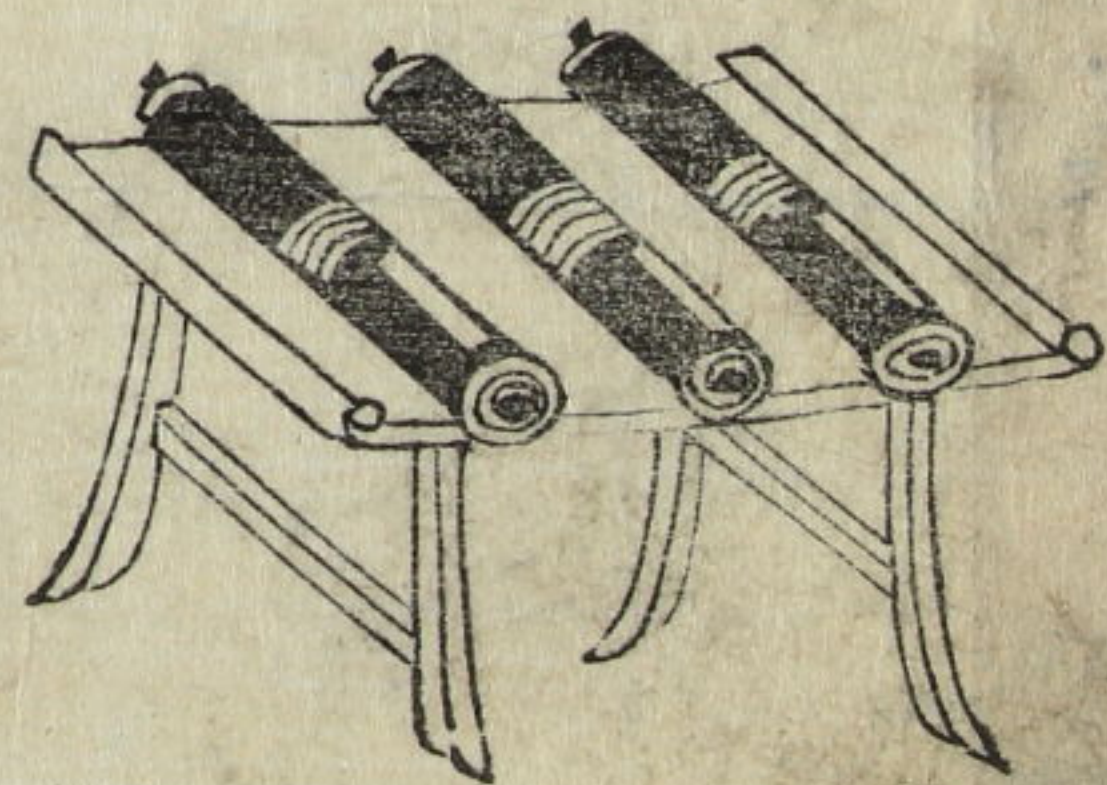
乃乃也

乃乃也

南都古市

江寒堂

蟬樹





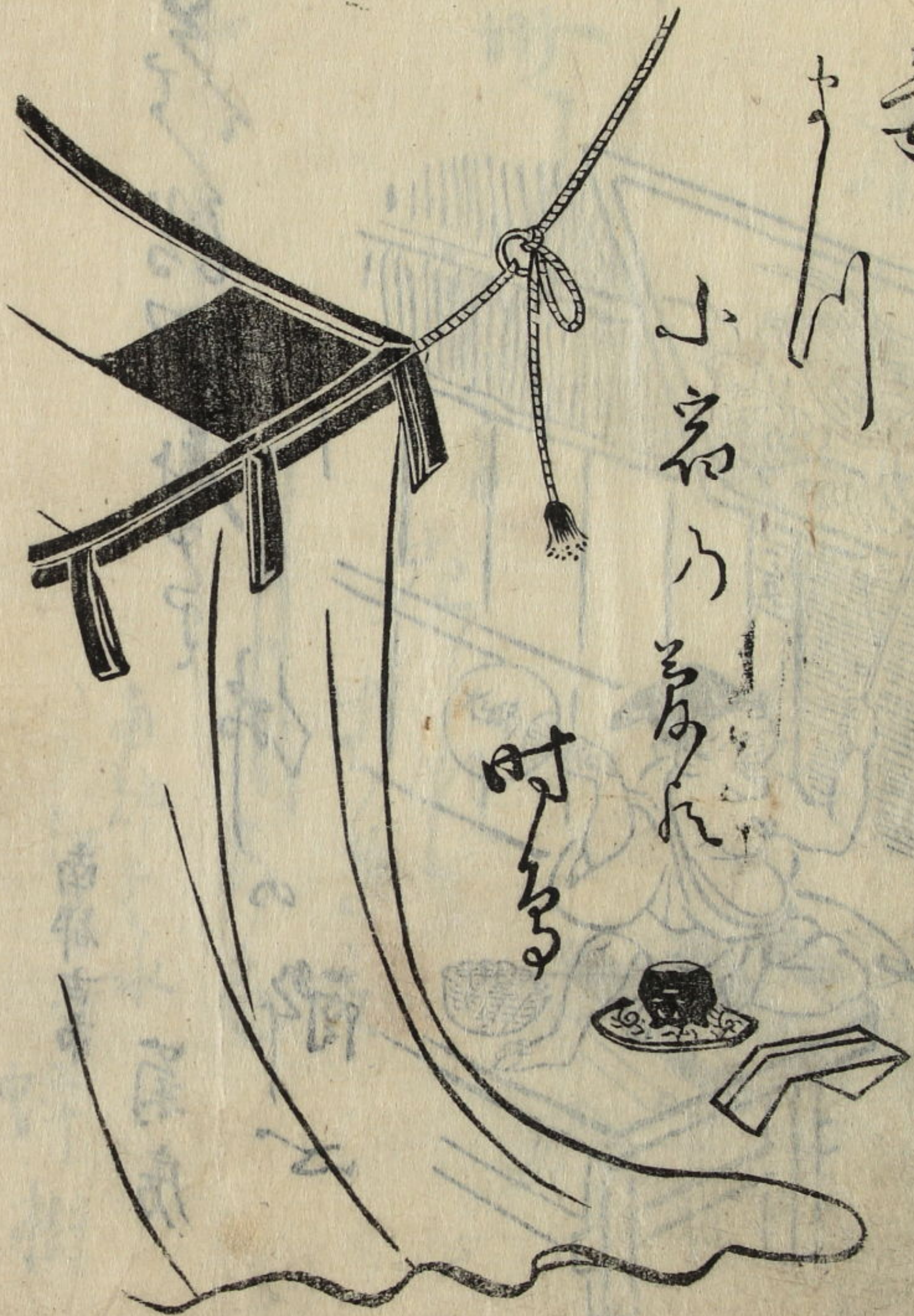
女

小島

小島

和州三輪

繡戸



時

毛皮志

南郡古市

見初こころも身みなり日ひ乃の多たの結むす夜よ也

榊可

丸まる筋すぢややひひもも急いそぐぐ平ひら保たもりりききん

花奄

初秋

郡山

ききーー鏡かがみやや目め出で度たきき安やす波なみ共ども蓮はすううち

惜考

四季歌略 暹来爰あよよ加

南郡

梅うめれれ目めやや枝えだすすもも乃の紅べにのの夕ゆふかかるる

薬只

阿あふふ寒さむーーけけ朔しよつ日ひ乃の六むのの花はな

藤ふじ子こややりり湯ゆ田たへへ早はやれれぬぬ鳥とり

白しろくく道みち乃の流ながのの常とこれれきき牡丹ぼたん



師の書能と信の毛別  
一ノ宮住吉の禰一時

長洲赤間園

秋涼——露も玉出乃る遊衣

頁

秋涼——露も玉出乃る遊衣

宗樹

秋涼——露も玉出乃る遊衣

水成

秋涼——露も玉出乃る遊衣

子白

秋涼——露も玉出乃る遊衣

實樹

秋涼——露も玉出乃る遊衣

全

秋涼——露も玉出乃る遊衣

全

上巳

泥足ハ踏まざるや 桃乃花

同不

含牙

とらふもも 扱ふも甲子苗也

全

急乃吐く 露もくも 秋乃專の人

頁

肯乃出—— 露を吸くや 梅乃花

森雨後

足らざるも 日よりうらるる 陸う那

天神社奉納

同所

桃乃花 世々くも 中此 露乃花

嬰車

富士と見ぬ 星へ 飛ひし 梅乃花

花鳥

誰乃と 見ぬ 星へ 飛ひし 梅乃花

花鳥







言社山后廟并

福原信

法切り来海や言節乃引くま

持酒

歩の一歩を折る

西乃海難波入江乃扇子うさ

全

昆陽守子信一

酒入る月乃体之や昆陽の池

信州信

全

水仙や味香きいづり酒相公

大鶴

要真

折原景下

七日をむご梅乃入日乳

芦舩

草庵は雲霧をなぶる胡蝶江

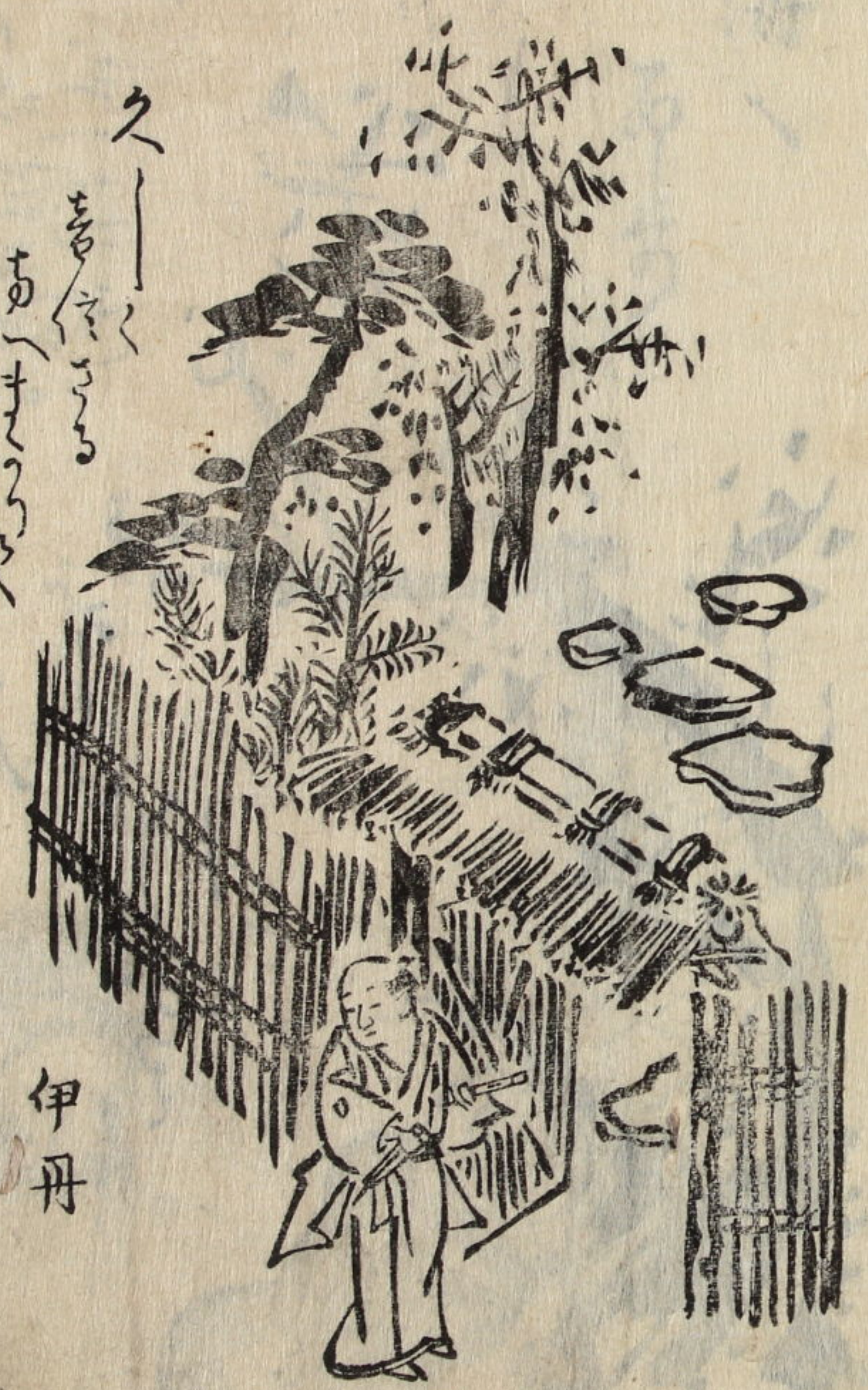
全

叶村毛今朝一をい春辰く那

全

夕立やうつ水もき来乃傘ハケ

全



久

多

あ

伊丹

多枝

松陽

社

水乃

下

下





海へ

石歩

夏

舟

帆乃

伊丹

亀行



楠

石

少年

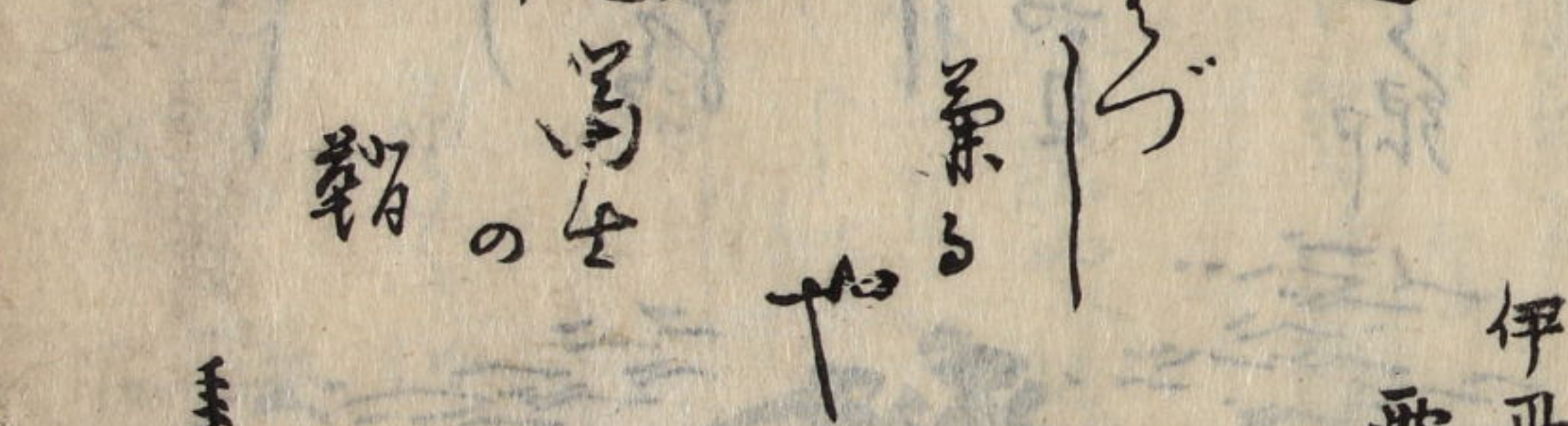
伊丹

文房



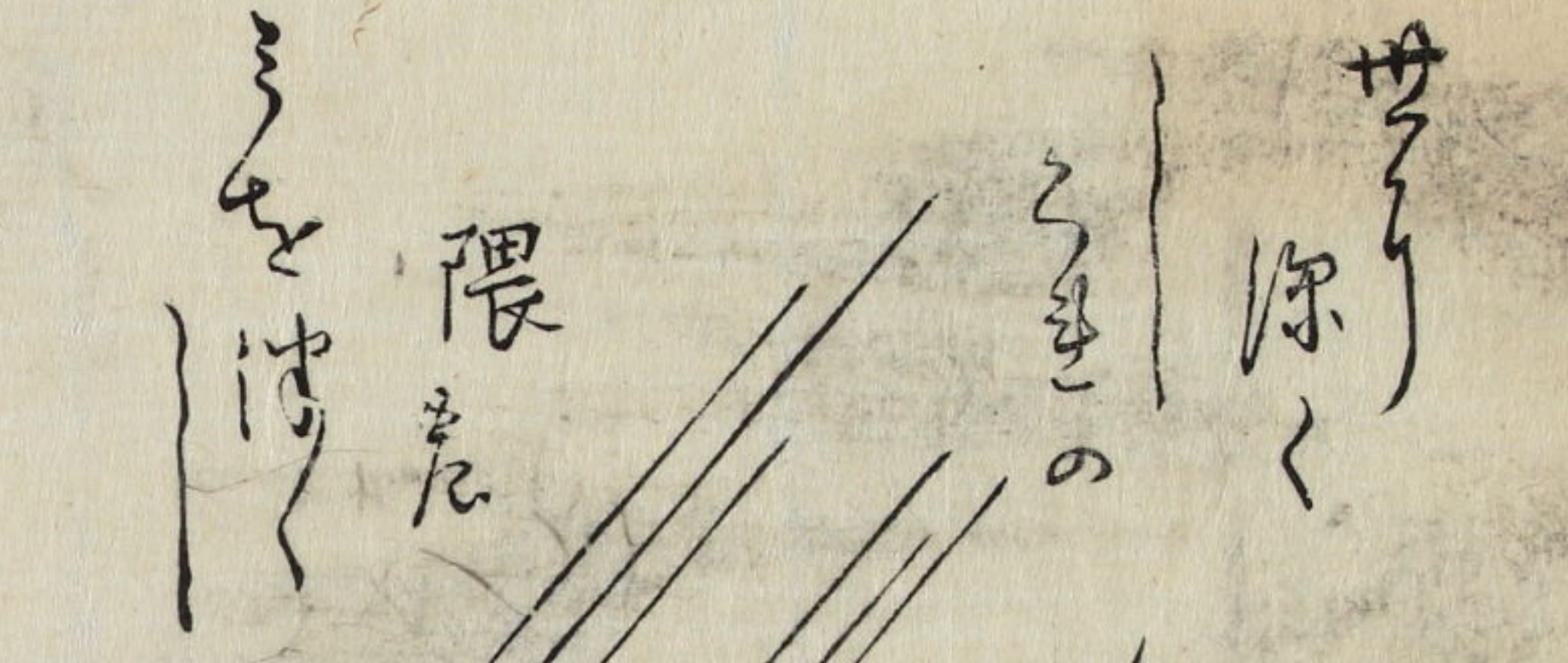


春風  
の

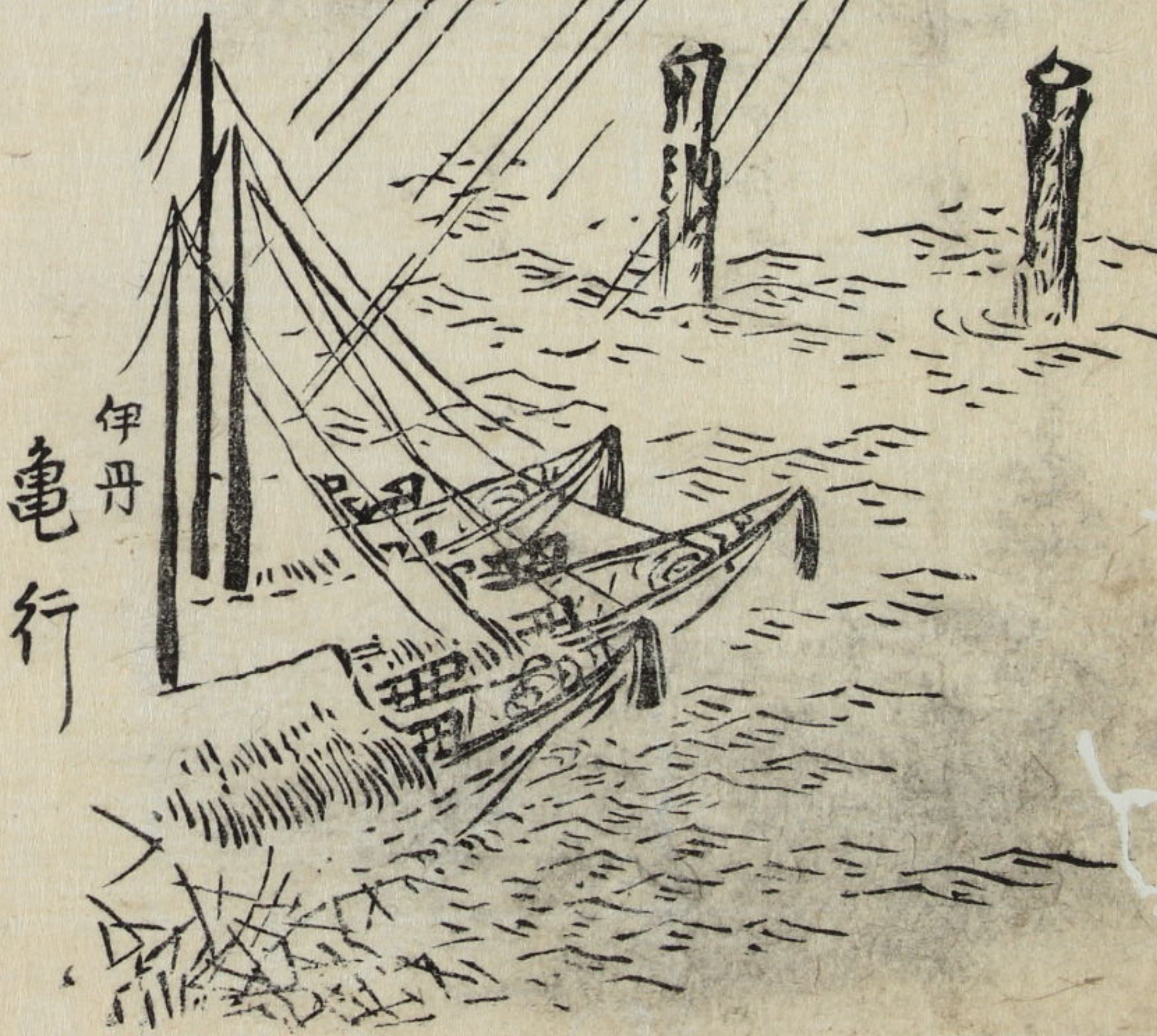


伊丹  
の  
郷

伊丹  
郷



伊丹  
の  
郷



伊丹  
郷



笠取也

和信

草何如

乃之書

伊丹

伊丹

中郷



近江大河北徒系子

志つての書

夕陽乃と漕くまは原より舟

十三夜

新風の續日本記や後より日

白雲危く人の一集を

賀しつて贈

早稲乃移して涼

混雜

かきよの流路へ唐く汐干し

梅の花と泳ぎ逢ふ

舟帆乃穴も忘ゆる

伊丹

幡房

全

池田

蘭亭

同所

文門

全

猫拾

同所



雷より馬茶の花やたけ出

目下

稻拾

影を産む山は今宵月ハ木とこ

玉枝

草将小梅一掃くもりり

目下

全

う川音や物と笑ひり水り面

嵐什

けあやえくろの埃を雪は

全

四景

時友

雪や雨怪れ乃前より梨

松樹

雨絶く若葉へこびたう川音

全

う川音ややうやうとも流る

全

酒造る村よりあま玉梅

全

苦概

阿及徳寫

う川水乃忽ちふる雪さう那

不尤

薄暑

同所

波く尾もと毛小湯とけり異さ

魚波

混雑

淡州丸龜

う川中やうろく花の香る

花植

う川中や水下一里後舟

全

同金毘羅

名月や廣く世界乃廣く

湖秋

系子ら生田井伊達や久月花

全

う川中やうろく

日州赤江川

月の昔やうろく

菊路



無井戸へすくすく

江戸

洞声堂

寛山

柳の這ふ處乃魂や外枯梅

自花乃中の柏子や卯とよは

芭蕉並ふ又を命く秋乃急

風乃骨焚く小夜や程汁

又浪花之部

此のまつこはつ子夜なる時  
不二山をよめり

人ち皆雪と斗や花乃富士

君里

馬の骨の寒く管根は花雪吹

全

卯月のもめ川乃  
譯とらむは

耳訓の夢やちうけけけ

全

本居の歌よりうきよ通るは  
源流乃水子富を山通す  
うけけけを又うけける

さうま子画く扇や源流乃湖

全

ある幽谷にありけり

茂るも梅あふむせは未るは谷

全

右の甲と他

風小和雨乃流まぬ柳乃

全

中秋

いづ摺とくくくくくくくくくく

全

言中紙の皮と紙の時

降る水とたなと一渡一舟

全



春興ニ季

夢りもさう鞋の眠る日紅う菊

乙斐改

鴉谷

川も梅やさむく画く明り餅

首夏

全

可も啼や磔乃陸如之

全

中元

まろくや中の元日 風り音

全

空系

苦舟へ杯妙川乃渡るやさ夜可雨

全

春情ニ季

破る家さうおふんあなや梅の花

朱全

欲り庭歩如身より山さろく

全

三月尾

襟く乃白粉元は六をんう寄

細涼

吹かれ風やさむく夏 氷

立秋

涼 さい我 狂る涼 小を先い

全

中秋川口は種舟と涼

海上茶々く先く梨

花枝く月さく種や次廣明石

全

空系

と川流和若狭小細乃信加城

全

郊外子真

水仙乃泳と味り 袖ふり

全

雪後

朝りく雪新信是雪此雨角

全



四景 夏二季

紅波海乃なみふまの梅う那  
孝丈人の後者すくもや盟粟此花  
此乃此ハ誰か誰か森乃江乃水也  
よの影さひくく根乃種ぬく屋  
炭竈と燈むやう音吹花暗るる

秋の夜

やう波う海く風此柳心  
老りく乃むくやあふる去用干

萩の夜  
うらみ候後るる

芦江

全

全

全

全

瓶英

全

朝顔乃河くふ久く今朝の月

朝顔

花を根よりくふるあふ芽乃蒼う那

西名

握系乃冬く是冬きく後此く

くく

忘張くせ冬く菜系乃町物少

混雑

中乃花冬ハより那小山もか

新く待テあくも小冬く人夕涼

極糸の風冷涼く起日中橋

藤乃喜や寂くき時の冬二此友

是鏡

三鳩

全

全

全

全

全

全



壽

友

之

齡



安堵氏

是鏡

雪乃松

之

颯佳麦乃猫子ハ風此子不ハ

絨漕

風と伐奇の 研や 卯く 木寸

芳淮

梅

名月乃 魂返世 梅此花

全

汐干

波きく出見乃 浪也や 春の種木

琴樹

藤乃花小 瘡くく 水 春 西 香

全

冬二季

佛子冬成る 事うさ 記阿く 是ハ

全

く川雪や 赤く 不 空 冥乃 ちり 梅

全

安清田意

う身悉乃 返と 席小 借と 日ハ

全



四季

水へ声むとひくをー天津 丁

夏棹

灌仏

まゝ凡まろふを佛乃あまろへ里

全

初秋

猫舌より未々喰ひ残さるる

全

凱雪

名月乃囀吐きくもる空をさ

全

全以干

位々の海小さうや起るる日く家

旅夾

鬼面合や齒乃ちり口をひく初

全

逆た川く何とくくもれ海乃ちり

全

牛膝乃札と破連く扇系

全

四景

日と恵ミ日り 傍り梅乃恒根の南

友知

笋と程と玩きー何れさ

全

樓閣より御学院乃親父の那

全

泥糸も首吞込んくきさ

全

全

本小室よあつは娘 襟乃雪吹く南

五橋

卯如花や唇との咽を乾き出

全

振る髪と指乃ち並や秋の改帳

全



冬枯や 拙く 腰なる 三日如月

全

五橋

蒲公英や 去るへく 尻を する 鼓

却乃 掃の 片ふ まで 度し 重の 碑

蛇 豆や 葉と 皆 錦は 成ふ たり

肥 ころろ 故り 貴 赤 甚々 那

夜冬

急がし 去るや 何や 免乃 花ん

怪火 小 忘れ 也く 赤 白ひく 菊

水仙とて

雪を 出さく 赤く 白く 菊乃 花

宗樹

全

女 分桂

全

全

全

此 菊玉

すまじ

本乃

祇 夾

足



蘇

ち





草

虎尔木魚

台教

五福



出用

水

舟

坂

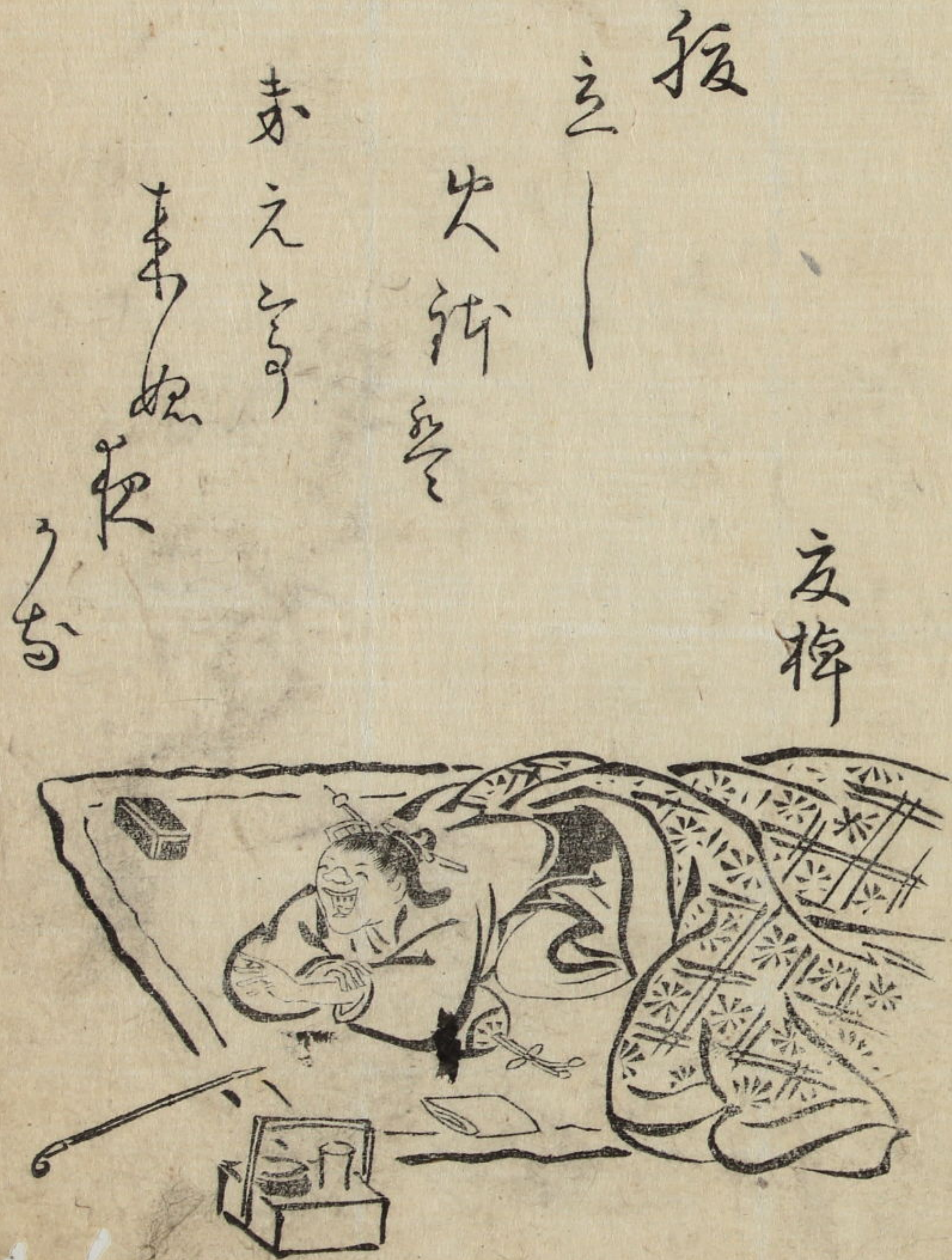
山

友知



下







春の川也小出く

糸乃うしとふるをえて

雲風小なりひく子と歩乃柳う那

行門

さくく木ハ友枯ーくさる吉那小

全

あゝのさる枯ハ春をま川 木を

逢春てうしとふるをえて

か来此木と染とーるや花能雨

全

たてしーしーしー

蛇籠乃勝へははや月の御

全

姫松の裾浅尻くや夕うす

全

川とちと近し 稲田乃楳の花

芦三

清美又新小成就の日を放と

新月や檜造る乃正一位

全

空へく蛇る

社貫画

道心出ん

そ鼓心







早行七  
花乃  
塔  
漱  
杜  
若

五  
日  
禰

下

八  
十  
三

川  
名  
神

分  
之  
草  
わ  
海  
死  
有  
也

松  
平  
神  
の  
雨



下

八  
十  
三



春輝

糸乃子のた右さうしん勢の池  
海中へ入る産花 文衣

冬景

云はるふ降とハハ娘ーくま

春真

雨ふけまきのう湖乃花の浪

氷空

こしり空さとまら け日うぬ

しし菊や凡まき初さう

神将

曉雀

全

全

百景

辻喬

全

全

夏川也

山名根と解虫乃

ゆんさう

曉雀



詩



空の晴く

一樹乃陰也

近看

片  
ら



位の

人前く、以て千々、豈と、とまき、是、具

徒用、横へ、まう、り、く

伏ぬ、と、す、み、う、ら、愛、れ、り、く、記、す

障子、さ、せ、秋、も、ま、ら、乃、不、破、此、園

石、を、押、さ、と、ま、り、や、ま、つ、く、初、め、く、也

四季

二月、時、也、推、松、々、名、倉、出、所

日、盛、小、家、屋、根、ハ、チ、ウ、木、屋、根、屋、分

磯、子、也、罷、乃、賣、神、農、子、里、合

川、音、傳、ま、る、丸、氷、乃、く、く、立

夏啓

全

全

全

敬奇

全

全

全

示



四時續混雜

唐弓乃喜何り梅此村もつ是  
江戸堀の草も宇治乃出店は  
苗より日秋実さ度は和義之菊  
風や宮乃背巾もえへるる  
花よりよ被の中若香穂峰  
位より一の隅より存小や輝る  
大聖や竹もけ長巻痕氣持  
多くてくはし秋乃折るふ  
二とせよまきふまふ長そ姫もく矢

文里

全

全

全

麻起

全

全

信山

湖水

牡丹

汐子

栂柳

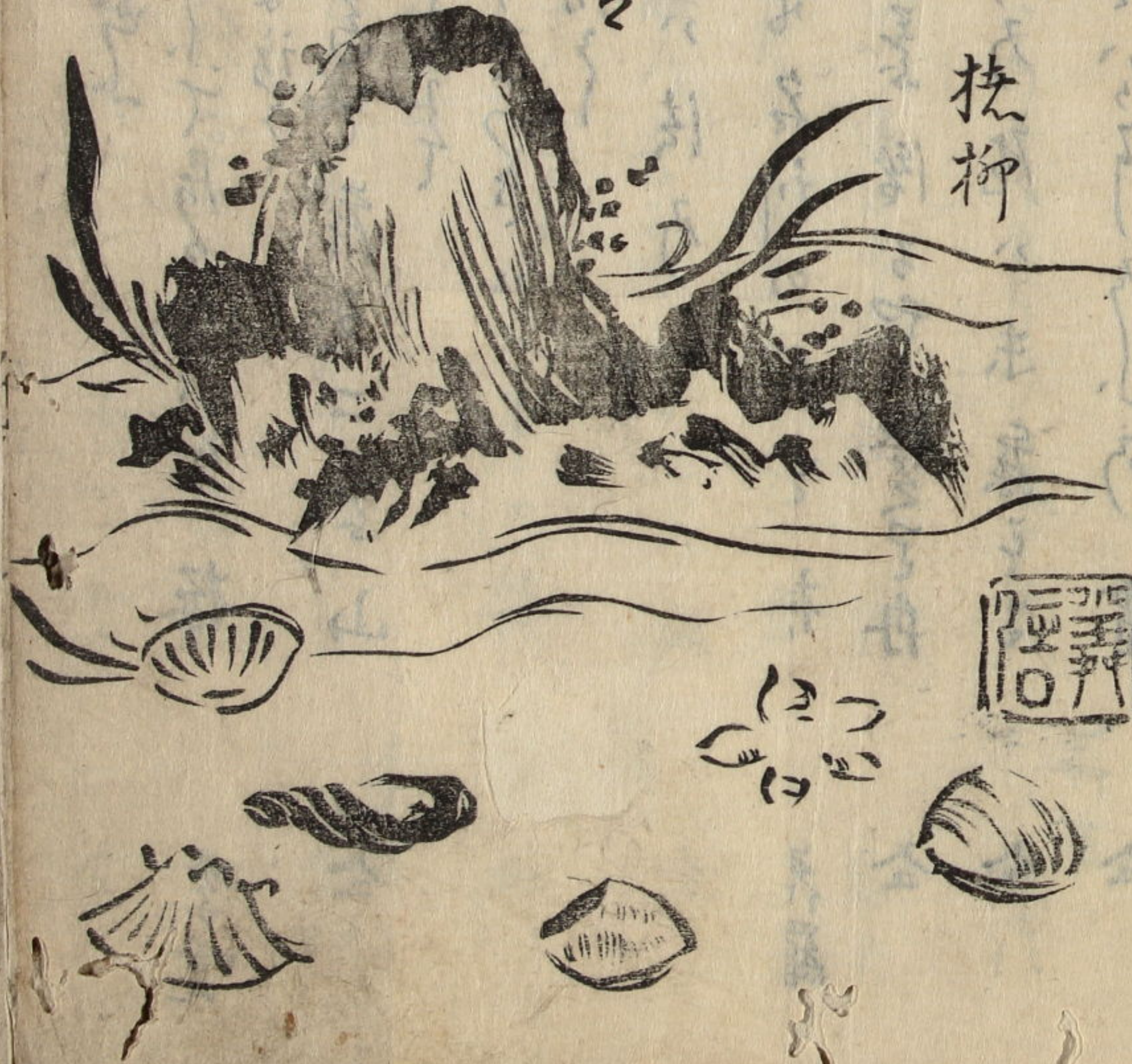


悉く

乾きり

伸

石





申邊より遊ぶ

来らん人ときくふて居る花いづ梅

李曉

菱々多し訪々

花小多し此目高し茂る二葉山

全

長居のうらまへ

月一ツ波もうなつき結費ら那

全

法會より訪々

花信や小春ハ法乃花う路

全

春菊や厄も名利の外を極

花羅

花い〜と若葉 階るや登り舟

全

名月や隣り乃花ハ未寐とこ

全

八景乃一間といふうらまへ乃雪

全

十三夜

一軒舎

漏る身ハいと〜月乃後ニ堂

晚鐘

己系

紫合乃花乃小春とさ花柳ハ

席丈

清女の衣麻呂〜しや時乃鳥

全

益茶多しや梅乃春小深と三井の鏡

全

常盤山花り色まは時雨ハ

全

友こそ多

若きと男の女の人と

文孫堂

お〜と遊んで花際祈る月日う春

舎持

居眠〜ぬ丁種玉ま〜る色花ハ

全

その〜多乃花〜川小か〜る畏さハ

全



四季

極楽色地獄も 花乃夕子水

景

真室

新草此世哉 中む亦雨此

全

草生ふる山より 殊に穠茂の苗

全

佛のそよぎ世を水と

井乃風 園とと 八々一 一之執

全

信義の雲居乃凡也 同心半

逢有今や一編成就若る朝と徳

比や一巻の如く 祝吟一章を備へ

旧文乃信と遠へさゆ而已

片雲園

真定

為 葉う、やうと色を掛一と

瓶波伝

西海書一集と我

東方の如く至作と我

園 今我とと 廊 衛の

うも 玉 名 家

庭 子 松の

おの 厭と







貞德戴恩記

全四冊  
出來

淡々文集

全三冊  
出來

全後編

近刻

全發句集

全二冊  
出來

全續雜談集

嗣出

全鳥羽花

龍以上高川一冊  
出來

全一百推

全高印全一冊  
出來

全次編

全  
近日出來

全萬句集

全初編全一冊  
出來

全二編

全  
出來

歲暖集

半時庵祝壽編全三冊  
出來

押花百女

富天撰 全一冊  
出來

東龜

全撰行脚集全三冊  
出來

民歌行

全選 全四冊  
出來

二百歌仙

全撰高判拔全三冊  
出來

全續編

全選 近日出來

熱田日記

雪泉行脚集全三冊  
出來

西海春秋

田鶴樹撰 全三冊  
紀行文筆畫賛入 出來

之十者

佳方選 全一冊  
出來

半時庵年賀集

富天撰 全六冊  
出來



全二錄

出宋

全萬石集

全四錄全一冊

出宋

全六錄

全

出宋

全一百點

全高甲全一冊

出宋

全真如

全高甲全一冊

出宋

全寶錄

出宋

全發何集

全二冊

出宋

全新錄

出宋

全文集

全三冊

出宋

真新漢恩信

全四冊

出宋

全宋文

出宋

全十香

全一冊

出宋

全春香

全三冊

出宋

全日香

全三冊

出宋

全寶錄

全

出宋

全山

全三冊

出宋

全行

全四冊

出宋

全通

全三冊

出宋

全真

全一冊

出宋

全錄

全

出宋

全後

全發

全雜談集

鳥

文



誹諧右紫

白打選 全三冊 出来

五文真

全撰林吟豆萬句 竟真 全二冊 出来

半墨

全撰吟百千發句 拔粹 全二冊 出来

難波筏

全撰二百歌仙高判 全二冊 出来

朽葉

法策撰 全部二冊 出来

神佛同應

全部二冊 出来

部借沙懷紙品

沙のり紙

日抄摺物彫刻

洞進仕

石印彫刻

法用紙

唐方

朱青印肉

高判家目貫

布門 波末 兩考 全一冊 出来

高判第五橋

蒲文撰 全一冊 出来

古硯屏

水足在橋撰 全三冊 出来

書林

丹波屋傳兵衛板

大坂北久太良町心赤間橋筋東



